

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第45回

森の彫刻家 上床利秋

黒板アート

黒板いっぱいにチョークで絵を描くという行為は2008年多摩美大の学生が教育実習で田舎の小生たちとの触れ合いの中で「本物の芸術を見てみたい」という願いに込めてあげたという気持ちから夏休みの小学校の黒板を借りて本格的な絵をチョークで描き上げ、登校日に子どもたちをびつくりさせてあげようというコンセプトで「黒板ジャック」という名称で話題になった。この活動はその後10年以上続きやがてマスコミの紹介も手伝わす全国的にも黒板アートとして定着していった。

第一幼児教育短期大では卒業研究という私の授業で美術を選択した学生が共同制作の学習として毎年、6・7



黒板アート制作中の美術卒業研究生たち

月ごろに図工室黒板で実施している。テーマは学生たちの話し合いの中から毎年決めていくが、今年はコロナ騒動で授業そのものが中止となるハプニングもあり、完成できるのかどうかさえ危惧されたが、学生たちの頑張りで充実した作品を完成させることができた。

共同制作のメリットは技法的なことはもちろん、心情的な内面まで全員で話し合い、同じ気持ちで完成を目指すことが出来ることである。各パートを分担でそれぞれ進めるが、苦手部分、得意部分を各自合意の上で入れ替わり教え合い、高めあうことがある。それが知らなかった同級生の心を改めて知ることにもなり、一つの作品を仕上げ切るといふ目標のもと、団結した満足感まで得られたのは新聞記事の学生たちの笑顔にもうかがうことが出来る。たまたま、記事にしてもらえそうなることを学生たちに話したところ、学生たちの集中力も高まったようである。

「リモコン操作する手」は最初は予定になかったのだが、予想以上に早めに肖像が仕上がったこともあり、このアイデアを学生の数名に語ったところ、休み時間を使って私のいない間に一気に描き上げてしまっていた。その方がレベルの高い表現になっていた。美術好きの若い人たちが本気になって模索すると上達の道はすぐに見つかるようだ。

日展会員 白日会会員 日本彫刻会正会員

志村けんさん、岡江久美子さん見てね 笑顔の黒板アート 天国から花まる評価!? 鹿児島・霧島市の第一幼児教育短大

霧島市国分の第一幼児教育短大の2年生7人が卒業研究の一環で、新型コロナウイルスによる肺炎で今春死去した志村けんさん、岡江久美子さんの黒板アートを制作した。茶の間を明るくしてくれた人柄を表そうと、17色でカラフルに描写した。

卒業研究の授業で美術を選択する学生は毎年、話題の人の黒板アートを作る。今年には追悼の意味を込め、2人と志村さんがテレビ番組で愛したチンパンジーのパン君を描いた。

縦1.1メートル、横4.5メートル。授業時間をはじめ、休日や放課後を使って6月から2カ月かけて仕上げた。「使う色が多くて難しかったが、みんなで調和が取れた」と元川広幸さん(19)。黒板をテレビ画面に見立て、リモコンをつける手も描き、2人の笑顔に会える場面を表現した。

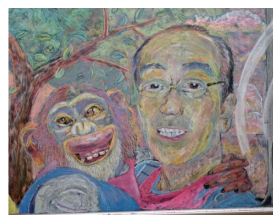
23日のオープンキャンパスで一般公開する。南谷蒼空(そら)さん(19)は「一目見れば、何の絵か分かると思う。若い人たちにコロナ予防は大切だと感じてもらえたら」と話した。



志村けんさん、岡江久美子さんを描いた黒板アート 霧島市国分の第一幼児教育短大



岡江久美子さん



笑顔の志村けんさんとチンパンジーのパン君

*枠内は南日本新聞ウェブ版記事。 本紙では南日本新聞令和2年8月16日 20面に掲載。

この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか
ホームページ刷新しました。
<https://douzou.jp/>

上床利秋

検索

このページのバックナンバーもカラーで読むことができます。



レモン画材

絵画教室 ご案内

●隔週水曜日 10:00~ 油絵・水彩教室

●隔週土曜日 16:00~ 油絵・水彩 教室

●隔週日曜日 16:00~ デッサン

●隔週土曜日 ①10:00~ 子供絵画教室
②13:30~

●月1回 第2火曜 10:00~ 和紙ちぎり絵教室

お申し込みは TEL 0995-45-1015
国分進行堂・レモン画材まで